

2

2004年

組合広報

NO. 446

よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

わたしの意見	組織体の重要性	副理事長 由田 猛	1
	理事長日誌、組合・関連団体行事予定		2
	技能教育委員会、広報委員会		3
	国土交通省へ“組合との協議の場を”要望		5
	ほう素・ふっ素の排水処理技術のメーカー説明会ご案内		8
	東京都環境局産業廃棄物対策部が公防協施設視察		9
	めっき技能検定受検案内、毒劇物取扱者試験講習会案内		10
	組合HP バナー広告掲載のご案内		12
あなたの予定表	3月の環研・協組集荷日程ほか		13
	訓練校第35期生年間日程表		14
	訓練校3月授業案内、訃報、表協環境部会・めっき部会案内		16
	全鍍連賀詞交歓会		17
	十日会新年会		18
	十日会第57回ゴルフコンペ		19
ピック・アップ	ふっ素樹脂含浸他		20
	(株)渡辺鍍金工場 大田区「優工場」に認定される、表面技術総合展		22
<随想>	厚生年金保険設立当時の思い出	組合相談役 江原猛二	23
支部シリーズ	大田支部の巻「日独戦」	石川貞行(大田支部)	24
つま恋坂	私の夢	上原裕司(城北支部)	27
支部通信	城東支部、城西支部、城南連合支部、城北支部		28
	中央支部、足立支部、本所支部、葛飾支部、向島支部、西部支部		
	水(梁山泊)		40

「組織体の重要性」

副理事長 由田 猛



めっき組合の関連組織体と致しましては、全鍍連(各単組の連合体)、東京都鍍金工業組合、そして東京組合を構成する処の12支部とそれぞれの組織体が形成されております。

全鍍連は国レベルでの、法律で決められる処の環境規制項目や、適正基準値について環境省や経済産業省との折衝を行ったり、また各単組に対して、事前に法律や規制内容についての情報や資料提供並びに説明等の指導、また法律が施行されてからの対応方法等について指導頂いております。

また全鍍連より経営基盤強化事業等の制度活用につきましても、積極的に指導支援を頂いて来ております。東京組合本部と致しましてはそれらの法律や支援制度を受けて、その実施に当りましては、その実行組織体であります各12支部に対し、資料配布並びに説明等の周知徹底を図り、行って来ております。

また環境確保条例のように、東京都が都条例として施行された環境規制項目並びに環境基準の遵守につきましても、同じ手順で各12支部に周知徹底されております。また実際の実施段階に置きましては、都の行政管轄下にあります、下水道局の各管理事務所や各薬事事務所等のご指導、監督を頂きながら実施しております。

これら環境規制に対しましては、各支部の組合員(各事業主)さんが、実際の仕事の中で規制値を守るべく日々努力されておられ、そしてその実施指導や協力をされておられるのが、各12支部の支部長さんを始め、各支部役員の皆さんであります。この支部活動こそが組合活動の原点でありまして、日頃の支部活動におけるご苦労、ご努力に対し改めて敬意を表する次第です。

このように我々めっき業界(組合)との関連組織体と致しましては、全鍍連、そして我々の東京都鍍金工業組合と、各12支部があり、それぞれの組織体としての役割を持ちつつ、またお互いが有機的に連携して、それぞれの使命を果たしながら発展して来ております。現在各組織体としての構成員は減少傾向にありますが、最近の環境規制が益々厳しく成って来ている現状を見ますと、それぞれの組織体としての存在意義並びに必要性は益々高まって来ております。

今後共この連携を堅持しながら、東京都鍍金工業組合としての役割、使命を果たしつつ、更なる組合の存在価値を高めて行く為に、努力してまいり所存でおりますので、今後共組合員皆様のご指導ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

大村理事長日誌



1 月

6 日(火)日本鍍金材料協同組合新年会

8 日(木)都庁挨拶回り

正副理事長会

新年賀詞交歓会

9 日(金)東京都中小企業団体中央会新年会

13 日(火)東京都労働委員会

16 日(金)工組事務局

向島支部、本所支部新年会

17 日(土)神谷家告別式

19 日(月)神奈川工組新年会

20 日(火)健保組合運営委員会

22 日(木)全鍍連常任理事会・理事会
新春賀詞交歓会

23 日(金)工組事務局

葛飾支部新年会

24 日(土)西部支部新年会

25 日(日)十日会新年会

30 日(金)環境プロジェクト国土交通省へ
請願

硬質クロム工業会新年会

～組合・関連団体行事予定～

3 月 2 日(火)全鍍連国際委員会

3 月 3 日(水)正副理事長会

環境委員会

全鍍連環境対策委員会

3 月 4 日(木)全鍍連広報委員会

3 月 10 日(水)全鍍連近代化推進委員会

3 月 11 日(木)全鍍連技術委員会

3 月 12 日(金)訓練校修了式

3 月 19 日(金)健保組合会(池之端文化セ)

3 月 23 日(火)訓練校素養調査

3 月 27 日(土)日本鍍金協会年次大会

4 月 2 日(金)正副理事長会・理事会

4 月 6 日(火)訓練校入校式

4 月 7 日(水)広報委員会

4 月 20 日(火)環境委員会

4 月 22 日(木)監事会

全鍍連総務委員会

4 月 23 日(金)中央支部総会(精養軒)

全鍍連監事会

5 月 6 日(木)正副理事長会

理事会

監事会

5 月 21 日(金)正副理事長会

総代会(2:00 東京ガーデン)

工組 第5回
技能教育委員会

訓練校事業内容検討

と き 平成 16 年 1 月 26 日(月)18 : 30
ところ めっきセンター会議室
出席者 八幡、志田、高倉、下平
苅宿、菅野、石井、田村
田村、大和田、豊田、中田
太田、坂井、安西、鈴木、
(訓練校)神戸、(講師)鈴木
(事務局)志賀、長嶋、宮部、三鴨

志田委員長、八幡副理事長の挨拶後、議事に入った。

1. 高等職業訓練校技能照査について

試験科目はニッケル、中和滴定、受験者数 41 名。スケジュール、試験実施内容、名簿分担表についての確認を行った。

採点は、ニッケルめっきの厚さについては土井正先生に、外観及び全体評価については鈴木昭一先生に判定して頂き、中和滴定については、時間や動作を確認用紙に記入し中和滴定の回答用紙は回収する。

委員の集合時間 8 時、環研・事務局の集合時間 7 時 30 分とした。

2. 平成 16 年度高等職業訓練校事業内容検討について

(1) 第 35 期生の募集状況は、55 名の入校希望があり、入校願書提出人数は 18 名で、前年度に比べると、募集案内、願書提出が順調に進んでいる。また、員外からの申し込みが多く、組合員に対して、書類を早く提出するよう呼びかける。また、組合員事業所の訓練生が、募集人数 48 名の 2 / 3 以上でないと補助金が交付されないの、員外の入校希望者については、国内留学をお願いし、組合員事業所にも受け入れていただけるよう、お願いを

する。

(2) 来年度の訓練校の補助対象設備として、高精細クイックマイクロスコープを購入する予定である。

(3) 来年度の訓練校は、素養調査 3 月 23 日、入校式 4 月 6 日(火)、実技試験平成 17 年 2 月 5 日、学科試験平成 17 年 2 月 15 日、修了式平成 17 年 3 月 18 日に行われる。

素養調査には、三役、芹川、苅宿、若山、大和田、石井、中田、太田各委員の 11 名に出席して頂き、修了・入校式については委員全員の出席をお願いした。

3. 平成 16 年度技能検定試験日程・案内、及び毒劇物取扱者試験講習会案内について

(1) 平成 16 年度技能検定の日程については、毎年 7 月第 4 土、日に試験を行っているの、24 日(土)・25 日(日)に開催することとなった。課題説明会は、7 月 3 日(土)に行うことに決定した。リハーサルは 7 月 14 日(水)の予定とする。また、技能検定開催日の決定に伴い、訓練校の生産実技授業(めっきコンクール)の日程も変更することとした。

(2) 毒劇物取扱者試験講習会は、平成 16 年 4 月 21 日～6 月 30 日まで全 10 回行う。講師は鈴木昭一氏。

4. キャリア形成促進助成金について

平成 15 年度の助成金受給資格認定申請は、3 月末日までなので、来年度の訓練校派遣予定事業所に、早めに案内を周知するようにする。また、説明会に出席し、受給資格認定申請するところから、申請の手続きがスタートとなるため説明会に出席して頂くようにする。

5. その他

平成 16 年度の技能検定のキャッチフレーズは、葛飾支部の中田委員、太田委員が決めて頂くことにした。

高倉副委員長の閉会の辞で終了した。

工協組 第4回 広報委員会

表紙色パステルブルー選定

と き 平成 15 年 12 月 4 日 (木)
ところ 東京ドームホテル
出席者 姫野、木村、半田、神谷
内山、溝口、藤田、石川
上原、堀江、小島、広根
籠利、野田、岡
(事務局)宮澤、小原、島田

木村委員長が議長となり、はじめに姫野副理事長は「今年度4回目の開催であるが、はじめて全員の出席となった。今後も出来るだけ万難を排して出席をお願いしたい」と挨拶。半田副理事長は「今日は冷え込んだというが、私のいる東村山は都心より更に冷え込みが厳しい。日中の仕事で普段は着ない作業着をきちんと着るほどである。今日は忘年会を控えており、委員会進行にご協力をお願いしたい」と挨拶した。

1. 平成 16 年表紙色の選定

過去に使った色を参考に検討し、特に景気が良くないことから、出来るだけ明るい色ということで、パステルブルーを選定、文字等を白抜きとすることにした。

2. 広報 12 月号、1 月号・2 月号の編集方針について

12 月号の校正刷の内容をチェックするとともに、台割に基づいて 1・2 月号の主な掲載内容を決めた。2 月号では各支部の新年会を掲載する。また、常設欄の

つま恋坂と支部シリーズの担当順番を確認したところ、両方が同時期となっており、両原稿作成は大変なこともあり、つま恋坂と支部シリーズを半年間離すこととし、次の順番とした。

つま恋坂 支部シリーズ

1 月号	足立支部	品川支部
2 月号	城北支部	大田支部
3 月号	葛飾支部	向島支部
4 月号	西部支部	城西支部
5 月号	本所支部	中央支部
6 月号	城南支部	城東支部
7 月号	品川支部	足立支部
8 月号	大田支部	城北支部
9 月号	向島支部	葛飾支部
10 月号	城西支部	西部支部
11 月号	中央支部	本所支部
12 月号	城東支部	城南支部

神谷副委員長は「前回委員会でホタルの幼虫を飼っていることを報告したが、半分が順調に成長している。あとの半分がどうなったか、飼育の難しさを痛感している。今年の委員会活動への協力を感謝申し上げる」と閉会の辞を述べ委員会を終了、引き続いて忘年会に移った。



国土交通省へ“組合との協議の場を”要望

今年6月30日をもって下水道法に基づく、ほう素、ふっ素等の暫定基準が切れることに対して、東京都鍍金工業組合・環境プロジェクトは、1月30日(金)午後2時、下水道法を管轄する国土交通省を訪ね、石原大臣宛「下水排除基準について当組合と協議する場と機会を設けて下さい」との要望書を提出するとともに、業界の実情を説明して、ご理解を求めた。

当日組合から大村功作理事長、姫野正弘副理事長、組合環境プロジェクトの石川進造委員長、川上洋一委員、八幡順一委員、菊池忠男委員、国交省とのコンタクトを取って頂いた近藤忠夫大田区議会議員(中小企業緊急対策特別委員長)、志賀孝作環研所長が出向き、島田次郎石原ひろたか事務所事務局長、国土交通省の佐藤紀人大臣秘書官、岡久宏下水道事業調整官が応対して頂いた。

はじめに大村理事長が組合の要望書を佐藤秘書官に手渡した。石川委員長は要望書の主旨を説明、また、組合各委員から、暫定基準が切れて、原則規制された場合、処理技術がなく、めっき業者は対応出来ないなど大きな影響を受けることを説明した。

これら組合からの要望に対して国土交通省側から“国土交通省が決められる話ではなく、一次的には環境省へ話をして頂き、私たちも環境省へ今日の話をさせて頂きたい”などの説明を頂いた。



国土交通省
石原伸晃大臣殿

東京都鍍金工業組合
理事長 大村 功作
環境プロジェクト
委員長 石川 進造

下水排除基準について当組合と協議する場と機会を設けてください。(お願い)

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

私ども東京都鍍金工業組合は、東京の重要な地場産業として長い歴史があり、日本の産業の担い手としても、重要な役割を果たしてきたと自負しているところです。

めっき業は、生産工程において、化学薬品を使用していますので、その環境保全に最大限の配慮と努力を重ねております。

現在、東京都下水道局の担当部門各位には、適切なご指導を頂いており感謝をしております。

当組合員事業所は、ほとんどが下水道に排水しているのが現状で、東京都の行政指導により、省エネ・節水型の工場となっております。その節水型であることが、新しい規制物質の除害を困難としております。

東京のめっき工場は、従業員規模 10 人以下の小規模事業者が大半を占めております。大都市の密集した市街地に立地し、各種の法規制の下で、工場面積も極めて狭く、排水施設の面積も限られたものとなっております。

新しく規制される化学物質の中には除害の不可能なものがあり、ほかにも除害が可能でも、投資金額、設置スペースが膨大となるものもあります。

昨今の不況のもとで、乏しい資金と狭隘な土地に悩む東京のめっき工場を、さらに窮地に追い込むことは必至であります。

この新規制については、めっき業界に対して除害の困難な物質として、国からのご理解をいただき、特別なご配慮により、3 ヵ年の暫定排水基準値を設けて頂きましたが、その期限も、平成 16 年 6 月末には切れることになります。

私どもは、都市型企业に適した処理技術が確立するまで「ほう素」「ふっ素」に関しまして、現行暫定基準値の延長をお願いしていますが、情報によりますと、今年 6 月末をもって暫定基準値が廃止と伺っています。

今回、お願いすることは、都内のめっき工場の厳しい現実をご理解いただき、新たな規制につきましては、業界の実情にあった実効あるものとなるように、ご指導いただく担当部門と、私ども業界との協議する場と機会を設けてくださるよう、お願い申し上げます。

(以下、私どものお願いの要点を列記いたしましたので、お取りはかりをお願いいたします。)

要望事項

日間平均排水量 50m³ 未満の、めっき工場の下水排除基準について下記のことを要望いたします。

(1) 国及び東京都の、下水道の排水規制値を設定する担当部門と、東京都鍍金工業組合との間に、協議する場と機会を設けてくださることを、お願いいたします。

(2) 下水道に排出している東京のめっき工場は、節水型なので、除害の困難な、ほう素・ふっ素の規制値の遵守は、現実的に困難です。

下水処理に支障が無い範囲で、めっき工場からの排水を、下水道で受け入れて頂きたく、お願いいたします。

(3) ほう素については、現在の処理技術の水準では、除去も固定化も不可能とされています。早急な処理技術の開発・促進が求められます。

ニッケルめっきに含まれる「ほう酸」から「ほう素」が出ます。ほう素を低減する代替めっきや、濃縮装置の提案はありますが、設置面積の問題や実証がなく取引先の承諾が得られません。

有害な6価クロムめっきの代替めっきとして、3価クロムの導入が推奨されていますが、これも「ほう酸」を使用するので、新たな問題が発生します。

(4) ふっ素については、現状の消石灰処理では規制値の遵守は困難です。新しく処理施設と、その設置スペースが必要になり、現在のめっき工場では、その施設・設置は困難です。処理可能な規制値をご検討ください。

めっきに最も有効な、前処理薬品であるホウフッ酸は、現在の処理技術では不可能とされており、

(5) 亜鉛の新しい規制が検討されていますが、規制値の設定については、業界との事前の協議をお願いいたします。

(6) 東京の下水道は河川・海域では規制値が異なります。また河川・海域の線引きも実情に合わないなど、幾つかの問題点もあります。東京の下水道の排水規制値を、河川・海域を問わず一本化して頂くことを、お願いいたします。

以上、東京のめっき工場の厳しい実態を、要望として列記させていただきました。ご理解をたまり、業界の実情に配慮された、実効ある環境規制を求めて、協議する場と機会を設けて頂くことを、お願いいたします。



組合員 各位

平成 16 年 2 月 16 日

事 務 連 絡

東京都鍍金工業組合

ほう素、ふっ素の排水処理技術のメーカー説明会ご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、平成 13 年 6 月 22 日、下水道法施行令の改正により、事業者には、「ほう素及びその化合物」「ふっ素及びその化合物」に係る下水排除基準が新たに追加され、めっき業につきましては、暫定基準値が適用されてまいりましたが、その適用期限は、平成 16 年 6 月 30 日と迫っています。

私達・組合では、処理技術が確立するまで、「ほう素」「ふっ素」に関する暫定排除基準値の延長や日間平均排水量 50m³ 未満の小規模事業所への排水基準値の適用除外の措置が講じられますよう、国や東京都に対し、鋭意、働きかけてまいりました。

このたび、東京都下水道局排水指導課の「ほう素・ふっ素の排水処理技術の開発」に協力していただいた排水処理メーカー 8 社の排水処理実験の結果が、明らかになりました。

本説明会では、排水処理メーカー 8 社の排水処理技術の開発・処理実験の結果について、説明の機会を設けたものです。組合員各位におきましては、本説明会での各メーカーの説明内容から、ほう素、ふっ素の対応策を考える判断材料にいただけたら、幸いです。組合員各位の受講をお願いします。

排水処理メーカー 8 社の説明を、東京都鍍金工業組合 めっきセンター 4 階会議室で、時間の関係で延べ、4 日間の日程としました。受講ご希望の方は、希望日時、受講人数（複数の受講も可）をご記入のうえ、2 月 25 日（水）までに、当組合まで（FAX03-3816-6166）、至急お申込みください。

説明会でのレジメは、当日、受講者に配布いたします。

月。日	時間	水処理 メーカー	処理方法	担当	連絡先	処理薬剤名	処理対 象物質	受講希望 日 [○印]	受講人数 [人]
3. 1 月	18:30	ホーリュウ化学㈱	凝集沈殿	廣木	03(3434) 2801	ハロゲンキラー	ふっ素		
	19:30	㈱東京久栄	凝集沈殿	宮嶋	048(268) 1605	電解アルミニウム 法	ふっ素		
3. 4 木	18:30	日華実業(有)	凝集沈殿	王	03(5825) 8152	ニッカフロック NK-Y6F	ふっ素		
	19:30	三菱商事㈱	凝集沈殿	野中	03(6405) 4814	ジェラニック (新機能的凝集剤)	ほう素 ふっ素		
3. 8 月	18:30	アクアス㈱	凝集沈殿	渋谷	03(3783) 7489	エフノン	ふっ素		
	19:30	日本電工㈱	イオン交換 樹脂吸着	清水	03(3546) 9333	B-クルバック ・Fバック	ほう素 ふっ素		
3. 15 月	18:30	富士化水工業㈱	キレート 樹脂吸着	園田	03(3445) 1712	ヘルディBシステム	ふっ素		
	19:30	NEC アメニブラン テクス㈱	凝集沈殿	和田	042(771) 0656	分別処理法 +NE F-1	ほう素 ふっ素		

ほう素、ふっ素の排水処理技術のメーカー説明会受講申込書

1、支部	支部	事業所名	
2、受講者名			
3、ご住所	〒 () TEL ()		

東京都環境局産業廃棄物対策部が公防協施設視察

東京都環境局廃棄物対策部(産業廃棄物技術担当課長・谷川哲男氏、産業廃棄物対策課 指導係主任・末藤祐二氏、指導係主事・福井輝之氏)が2月4日(水)、志賀孝作環研所長の案内で東京鍍金公害防止協同組合・城南処理センター施設を視察した。



めっき技能検定受検のご案内

東京都鍍金工業組合

平成 16 年度の技能検定(前期)めっき 1 級・2 級・3 級が下記のとおり実施されます。受検希望の方は受検申請書等を送付しますので下記によりお申込下さい。

特級技能検定は平成 17 年 2 月頃に実施されますので、ご希望の方は今回の受検希望に合わせてお知らせいただければ、平成 16 年 9 月頃に受検申請書をお送りいたします。

技能検定とは、職業能力開発促進法に基づき、生涯をととしてそれぞれの段階で、受検者の皆さんがもっている技能の程度を一定の基準によって検定することにより、皆さんの技能が一層みがかれ、又皆さんの社会的・経済的地位の向上を図ることを目的とした国家検定制度です。

この技能検定は、特級・1 級・2 級・3 級に区分し、それぞれ学科試験と実技試験とによって実施します。技能検定に合格した者には、特級・1 級は厚生労働大臣名の、2 級は東京都知事名の合格証書と技能士章が交付され、職業能力開発促進法に基づいて「技能士」と称することができます。

1. 試験要領

・実技試験 期日：平成 16 年 7 月 24 日(土)、25 日(日)

(課題説明会 平成 16 年 7 月 3 日(土))

会場：めっきセンター(文京区湯島 1-11-10)

概要：1 級 次に掲げる作業試験を行う。(試験時間：3 時間)

- (1) 鋼板にニッケル・クロムめっきをする。
- (2) 鋼板に亜鉛めっき・クロメート処理を行う。
- (3) 不調めっき液を分析調節し、ハルセルテストを行う。

2 級 次に掲げる作業試験を行う。(試験時間：1 時間 55 分)

- (1) 鋼板にニッケル・クロムめっきをする。
- (2) 鋼板に亜鉛めっき・クロメート処理を行う。
- (3) 酸及びアルカリの中和滴定を行う。

3 級 次に掲げる作業試験を行う。(試験時間：35 分)

- (1) 鋼板にニッケルめっきをする。

※試験内容・時間については変更もあります。

・学科試験 期日：平成 16 年 9 月上旬 会場：未 定

2. 受検料 実技試験 15,700 円 学科試験 3,100 円

3. 事業運営費 実技受検者は受検料の他に事業運営費を徴収致します。

東京都鍍金工業組合員事業所：6,000 円 組合員外事業所：12,000 円

4. 受検資格 受検案内をご参照下さい。

5. 資格免除 試験の免除(めっき学校修了生の方 2 級学科試験免除)

6. 受検受付 受検申請書、事業運営費、資格免除(修了証)の証明書等をご提出下さい。

*東京都職業能力開発協会は平成 16 年 4 月上旬

*東京都鍍金工業組合では 3 月 15 日(月)～4 月 2 日(金)まで受け付けます。

＊特級技能検定試験申込の方も合わせてお申し込みください。

(平成 16 年 9 月まで随時受付中)

7. 申込方法 受検ご希望の方には、受検案内、受検申請書を送付しますので、組合事務局までお申込下さい。ご不明の点があればお電話下さい。

東京都鍍金工業組合事務局総務課 TEL 03(3814)5621 FAX 03(3816)6166

毒物劇物取扱者試験講習会ご案内

東京都鍍金工業組合

平成 16 年度の東京都毒物劇物取扱者試験が 7 月上旬頃に予定されております。
当組合では、試験対策講習会を実施する予定ですので、受験を予定されている方は、是非受講されるようご案内申し上げます。

なお、下記の要領で行う予定ですので、受講をご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、下記の宛先に郵送又は F A X にて申込み下さいますようお願い申し上げます。

1. 講習日程

回数	期 日	時 間	科 目
第 1 回	4 月 21 日(水)	18:00～21:00	法 規
第 2 回	4 月 28 日(水)	〃	法 規
第 3 回	5 月 12 日(水)	〃	法 規
第 4 回	5 月 19 日(水)	〃	基礎化学・物理
第 5 回	5 月 26 日(水)	〃	基礎化学・物理
第 6 回	6 月 2 日(水)	〃	基礎化学・物理
第 7 回	6 月 9 日(水)	〃	各 論
第 8 回	6 月 16 日(水)	〃	各 論
第 9 回	6 月 23 日(水)	〃	各 論
第 10 回	6 月 30 日(水)	〃	各 論

※なお、工業高等学校又はこれと同等以上の学校で応用化学に関する学科を修了した方は「毒物劇物取扱責任者」の資格があるので受験する必要はありません。

2. 講習会場 めっきセンター(文京区湯島 1-11-10)

3. 講 師 鈴木 昭一

4. 受講料金 (テキスト代を含む)第 1 回目の講習日にお支払ください。

組合員 20,000 円

訓練生 15,000 円

員 外 25,000 円

5. 定員 45 名

(但し、申込者が少ない場合は講習会を中止する場合もございます)

6. 申込締切日 平成 16 年 3 月 26 日(金)

7. 申 込 先 東京都鍍金工業組合 TEL 03(3814)5621 FAX03(3816)6166

＊申込者が複数になる場合は、申込書をコピーして使って下さい。

ご不明の点がありましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

組合HPバナー広告掲載のご案内

東京都鍍金工業組合
ホームページ特別委員会
委員長 石川 進造

拝啓、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当組合事業に対して格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成14年9月より当組合ホームページ(HP)にバナー広告の掲載を開始し、現在5社の広告を掲載しています。

組合HPは、新たな情報の更新等、役立つ内容の充実に努めており、現在(15年末)で、約4万件のアクセスをいただきます。当該ホームページのバナー広告は、広告主各位にお役に立てるものと確信しています。なお、バナー広告の掲載要件は、下記のとおりです。

＜バナー広告の掲載要件＞

- ①広告掲載場所 組合ホームページ・トップページ ([URL:http://www.tmk.or.jp](http://www.tmk.or.jp))
- ②広 告 サ イ ズ 300×60ピクセル以内 (1箇所)
- ③広 告 料 金 20,000円／年 (1箇所あたり)
- ④広告契約期間 1年 原則として、平成15年9月～16年8月
広告主各位のご希望で、期中でも、随時、契約することが出来ます。
- ⑤募 集 対 象 (広告主の業種・地域的範囲)
広告主の対象者のうち、めっき専門業者は東京都鍍金工業組合 組合員
とし、及びめっき機材メーカー・材料商並びに土壌関連処理業者等とする。
- ⑥公序良俗に反しない広告内容とし、組合ホームページに影響を及ぼさないこと。

なお、貴事業所の組合HPバナー広告は、申込みを受け、契約を締結し、随時、掲載していくものとします。

連 絡 先 東京都鍍金工業組合 担当／近藤
〒113-0034
東京都文京区湯島1-11-10 めっきセンタービル1階
TEL 03(3814)5621 FAX03(3816)6166
E-mail:webmaster@tmk.or.jp

※別添の組合HPバナー広告掲載申込書は、郵送にて、送付してください。

3月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷		メ	モ
1	月			城東支部			
2	火		大田支部	城北支部			
3	水	正副理事長会、環境委員会		中央支部		全鍍連国際委員会	
4	木		品川支部・大田支部	目黒・世田谷地区		全鍍連環境対策委員会	
5	金			葛飾支部		全鍍連広報委員会	
6	土						
7	日						
8	月		城南支部	足立支部			
9	火						
10	水		城西支部	西部支部	十日会総会、全鍍連近代化推進委		
11	木			品川地区		全鍍連技術委員会	
12	金	訓練校修了式	城西支部・城北支部	葛飾支部			
13	土						
14	日						
15	月			向島支部			
16	火		中央支部・本所支部	本所支部			
17	水						
18	木		向島支部				
19	金			葛飾支部		健保組合会(池之端文化セ)	
20	土	春分の日					
21	日						
22	月		西部支部	蒲田・大森地区			
23	火	訓練校素養調査		城西支部			
24	水		城東支部・葛飾支部				
25	木						
26	金		葛飾支部	葛飾支部			
27	土					日本鍍金協会年次大会	
28	日						
29	月						
30	火		足立支部				
31	水						

(役員会・委員会は変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認下さい)

平成 16 年度(2004 年度)第 35 期生「東鍍工組高等職業訓練校」年間日程表

回	月日曜	講義科目・講義時間・担当講師			
		A タイム (PM2:00～5:00) B タイム (PM5:00～8:00)	講 師	● C タイム (PM5:00～8:30) ※ D タイム (PM5:00～9:20)	講 師
				<入校式> (18:00～19:30)	
1	4. 6 火	めっき概論・めっき用語	矢部 賢	基礎化学①	神戸徳蔵
2	4. 9 金	基礎化学②	神戸徳蔵	クラス会	八幡順一 志田和陽
3	4.13 火	電気化学①	鈴木昭一	金属・非金属材料①	石原祥江
4	4.16 金	電気化学②	鈴木昭一	金属・非金属材料②	石原祥江
5	4.20 火	前処理①	柳田和夫	金属・非金属材料③	石原祥江
6	4.23 金	ニッケルめっき①	土井 正	ニッケルめっき②	土井 正
7	4.27 火	ニッケルめっき③	土井 正	ニッケルめっき④	土井 正
8	5. 7 金	前処理②	柳田和夫	金属・非金属材料④	石原祥江
9	5.11 火	電気化学③	鈴木昭一	前処理③	柳田和夫
10	5.14 金	ハルセル試験①	土井 正	●実技 (応用 1)	環研職員
11	5.18 火	ハルセル試験②	土井 正	●実技 (基本 1)	土井 正、環研
12	5.21 金	前処理④	柳田和夫	●実技 (基本 2)	水元和成、環研
13	5.25 火	電気工学①	石川 進	●実技 (応用 2)	環研職員
14	5.28 金	電気工学②	石川 進	●実技 (基本 3)	吉本圭子、環研
15	6. 1 火	電気工学③	石川 進	●実技 (基本 4)	水元和成、環研
16	6. 4 金	機械加工	森 紀年	●実技 (応用 3)	環研職員
17	6. 8 火	塑性加工	基 昭夫	●実技 (基本 5)	吉本圭子、環研
18	6.11 金	と粒・研磨加工①	星野芳明	●実技 (基本 6)	土井 正、環研
19	6.15 火	と粒・研磨加工②	星野芳明	ハルセル試験③【定期試験①】	土井 正
20	6.18 金	表面工学	神戸徳蔵	電気化学④	鈴木昭一
21	6.22 火	加工図面の読み方①	小暮秀夫	加工図面の読み方②	小暮秀夫
22	6.25 金	腐食防食①	矢部 賢	亜鉛・亜鉛合金めっき①	鈴木昭一
23	6.29 火	腐食防食②	矢部 賢	亜鉛・亜鉛合金めっき②	鈴木昭一
24	7. 2 金	めっき設備①	小暮秀夫	めっき設備②	小暮秀夫
25	7. 6 火	粉じん①	星野芳明	電解研磨・化学研磨①	棚木敏幸
26	7. 9 金	粉じん②	星野芳明	亜鉛・亜鉛合金めっき③	鈴木昭一
27	7.13 火	制御機器①	小島一郎	電解研磨・化学研磨②	棚木敏幸
28	7.16 金	制御機器②	小島一郎	亜鉛・亜鉛合金めっき④	鈴木昭一
29	7.20 火	めっき材料①	星野芳明	ひっかけ治具①	矢部 賢
30	7.23 金	生産実技 (9:00～17:00)	環研職員		
31	7.27 火	ひっかけ治具②	矢部 賢	めっき材料②	星野芳明
32	7.30 金	電気設備	内野 孝	装飾クロムめっき①	高倉利守
33	8. 3 火	設備管理	山田 茂	装飾クロムめっき②	高倉利守
34	8. 6 金	硬質めっき①	星野芳明	銅めっき①	鈴木昭一
35	8.10 火	銅めっき②	鈴木昭一	硬質めっき②	星野芳明
36	8.24 火	貴金属めっき①	村楨利弘	銅めっき③	鈴木昭一
37	8.27 金	貴金属めっき②	村楨利弘	銅めっき④	鈴木昭一
38	8.31 火	無電解めっき①	神戸徳蔵	後処理①	川上洋一
39	9. 3 金	無電解めっき②	神戸徳蔵	※労働安全法規①	鈴木昭一
40	9. 7 火	無電解めっき③	神戸徳蔵	※有機溶剤 (医学) ②	石川辰雄
41	9.10 金	すず・接合めっき①	辻 清尊	※有機則 (環境) ③	志賀孝作
42	9.14 火	すず・接合めっき②	辻 清尊	※特定化学物質 (医学) ④	石川辰雄
43	9.17 金	すず・はんだめっき③【定期試験②】	辻 清尊	※特化則 (環境) ⑤	志賀孝作
44	9.21 火	合金めっき①	丸田正敏	※保護具⑥	長嶋政人
45	9.24 金	合金めっき②	丸田正敏	※作業環境⑦【特化則等試験】	長嶋政人

回	月日曜	講義科目・講義時間・担当講師			
		Aタイム(PM2:00～5:00)		●Cタイム(PM5:00～8:30)	
		Bタイム(PM5:00～8:00)	講 師	※Dタイム(PM5:00～9:20)	講 師
46	10. 1 金	プラスチック上のめっき①	大竹了雄	プラスチック上のめっき②	大竹了雄
47	10. 5 火	合金めっき③	丸田正敏	めっきの用途	神戸徳蔵
48	10. 8 金	後処理②	山崎竜一	めっき液分析①	斎藤弘幸
49	10.12 火	後処理③	山崎竜一	●実技（基本1）	環研職員
50	10.15 金	工場見学 9:00～17:00(別途計画)	神戸徳蔵		
51	10.19 火	めっき液分析②	斎藤弘幸	●実技（基本2）	環研職員
52	10.22 金	パルスめっき	尾形幹夫	●実技（基本3）	環研職員
53	10.26 火	複合めっき	小林道雄	●実技（基本4）	環研職員
54	10.29 金	排水分析	長嶋政人	●実技（基本5）	環研職員
55	11. 2 火	めっき規格	神戸徳蔵	●排水処理①	志賀孝作
56	11. 5 金	めっき評価	神戸徳蔵	●実技（応用1）	環研職員
57	11. 9 火	金属着色①	青江徹博	●排水処理②	志賀孝作
58	11.12 金	金属着色②	青江徹博	●実技（応用2）	環研職員
59	11.16 火	電鍍	小林道雄	●実技（応用3）	環研職員
60	11.19 金	バレルめっき①	星野芳明	●実技（基本6）	環研職員
61	11.26 金	バレルめっき②	星野芳明	めっき液分析③	長嶋政人
62	11.30 火	省エネ①	石川 進	プリント配線めっき①	高木 清
63	12. 3 金	プリント配線めっき②	高木 清	省エネ②	石川 進
64	12. 7 火	プリント配線めっき③	高木 清	特殊素地めっき①	矢部 賢
65	12.10 金	特殊素地めっき ②	矢部 賢	その他の表面処理	青江徹博
66	12.14 火	環境対策（大気1）	鎌滝裕輝	特殊素地めっき③【定期試験③】	矢部 賢
67	12.17 金	環境対策（大気2）	鎌滝裕輝	環境対策（振動・騒音）	志賀孝作
68	12.21 火	高速めっき	小林道雄	有害化学物質対策	矢部 賢
69	1.11 火	はく離①	鈴木昭一	●環境法規①	志賀孝作
70	1.14 金	はく離②【技能照査説明】	鈴木昭一	●環境法規②	小坂幸夫
71	1.18 火	ひっかけ治具③ 海野吉正、長嶋政人		●環境法規③	志賀孝作
72	1.21 金	品質管理①	矢部 賢	●環境法規④【環境関連試験】	長嶋政人
73	1.25 火	品質管理②	矢部 賢	塗装	大野 茂
74	1.28 金	電着塗装	大野 茂	原価管理①	内藤雅文
75	2. 1 火	原価管理②	内藤雅文	生産管理	長嶋政人
76	2. 4 金	皮膜試験①	水元和成	皮膜試験②	水元和成
77	2. 5 土	【技能照査実技試験】			
78	2. 8 火	機器分析①【定期試験④】	神戸徳蔵	●実技（応用1）	土井 正、環研
79	2.15 火	機器分析②【技能照査学科試験】	神戸徳蔵	●実技（応用2）	水元和成、環研
80	2.18 金	廃液処理	大西彬聰	●実技（応用3）	吉本圭子、環研
81	2.22 火	予備日		●実技（基本1）	水元和成、環研
82	2.25 金	予備日		●実技（基本2）	土井 正、環研
83	3. 1 火			●実技（基本3）	吉本圭子、環研
84	3. 4 金			●実技（基本4）	土井 正、環研
85	3. 8 火			●実技（基本5）	吉本圭子、環研
86	3.11 金			●実技（基本6）	水元和成、環研
87	3.15 火	皮膜試験③	志賀孝作	<修了式>1700～1800	
	3.18 金				

3 月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～17:00 C:17:00～20:30)					
日	曜	時	科 目	内 容(予 定)	講 師
2	火	C	実技(基本5)	各班毎に下記項目の試験及び測定。 1)耐磨耗性試験、中性塩水噴霧試験。 2)はんだめれ性試験、粘着テープ密着試験。 4)亜硝酸ばつき試験、各種の膜厚計によるめっき厚さの測定	松田 環研
5	金	C	実技(基本6)	自由実験	水元 環研
9	火	A	皮膜試験③ (めっき法)	皮膜試験実技の結果について、品質の判定及び評価法等。 東京都鍍金工業組合環研 志賀孝作	
12	金	18:00	<修了式>		

訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします

中山秀生様(全鍍連元会長、三重県組合元理事長、旭鍍金(株)会長) 1月15日午後10時51分死去、95歳。葬儀・告別式は中山家と旭鍍金(株)の合同葬により18日三重県津市のシティーホール津ベルコ会館で行われた。喪主は五女の幹子様。

庄田ヨミ様(品川支部・晃信精密機械(株)庄田一夫社長のご母堂) 1月19日午後8時20分東京共済病院で骨髄性白血病のため死去、101歳。告別式は24日午前10時から桐ヶ谷斎場で行われた。喪主は一夫氏。

安齋政枝様(本所支部・(株)朝日メッキ安齋克茂社長(組合常任理事)の奥様) 病氣療養中のところ2月10日午後10時48分死去、60歳。告別式は13日午前11時から江東区南砂のカルチャーパビリオン南砂会館で行われた。喪主は克茂氏。

(社)表面技術協会・表面技術環境部会 第27回講演会

日 時 3月20日(火)13:30～17:00

会 場 東京都城南地域中小企業振興センター

- めっき企業における環境経営の創意と工夫
清川メッキ工業(株) 清川卓二
- 排水中のほう素回収システム

- クロム含有スラッジの焼成による磁性材料の製造
武蔵工業大学 眞保良吉

参加費 本部会会員1社2名迄無料(3名以上1名につき3000円)、一般15,000円

申込法 当日会場にて

(社)表面技術協会・めっき部会3月例会

日 時 3月29日(月)13:30～16:40

会 場 めっきセンター(東鍍工組)

- ホウ素・フッ素の排水規制と処理技術
東京都立産業技術研究所 小坂幸夫
- 排水中のフッ素及びホウ素の効率的な除去方法と汚泥対策
三菱商事(株) 湯川恭啓
- キレストファイバーとホウ素

キレスト(株) 三原充武

全鍍連 平成 16 年新春賀詞交歓会

全国鍍金工業組合連合会(笹野不二夫会長)は1月22日(木)午後3時から港区芝公園の機械振興会館で来賓、会員多数が出席して平成16年新春賀詞交歓会を開催した。

笠間則文総務委員長の司会により鈴木喜代壽副会長の開会挨拶のあと、主催者を代表して笹野不二夫会長は「おめでとうございます。みなさんにおいてはさわやかな新春を迎えられたと思う。各地を回ってみなさんのお話を伺うと今年は非常に良い年になるのではないかと、3年ぶりに不況からの脱却という話もあった。私どもも新年早々トヨタ自動車さんに呼ばれてご挨拶に伺った。副社長から何か手土産は持ってきたかという話があって、何の話かじっと考えると、トヨタさんのお偉い方も、あれだけ企業利益を上げておりながら、まだまだ何かを求めているんだという感じがした。そこで私は、めっきなんてたかだか10ミクロン、20ミクロンの厚さで、素材の重要性を保護し、またいろんな機能を発揮する、そこをもっと認識して下さいと言ったらめっきはそんなものかと副社長は知らなかったのか分からないが、そういうことを言われた。そこで私は話した。昔の注射針は一回使っては消毒し何回も使っていたが、最近は痛くないように非常に細

い注射針を使うようになった。その穴の中までめっきをつけないといけないんですよと話した。注射針は今は使い捨てが多いが、点滴の場合は刺しっぱなしが多く、中が錆びて液が通らないというトラブルが多いそうである。今は本当に小さな穴の中までめっきが出来る、それを大いに活用してくださいと申し上げたところ、すぐに技術者を呼んで、いろいろな面でこういう機能は使えるか、こういう方法に替えられないかという話をいただいた。今年はその技術を開発しながら、みなさん方と先生方に教えて頂きながら今年1年テーマを持って頑張っていきたい。どうかご協力をお願い申し上げます」と年頭の挨拶をした。来賓として、青山市三経済産業省製造産業局非鉄金属課長、橋本一美全国中小企業団体中央会企画部長、本間英夫表面技術協会会長から挨拶があり、難波溥名誉顧問の音頭で乾杯、祝宴に入った。懇親会は、常任顧問の草間英一、山崎五郎、島村周作、石井博の4氏による中締め、原互副会長の閉会の辞までなごやかに進められた。



■十日会

平成 16 年新年会

十日会(菊地利博会長)は、1月25日(日)午後1時から千代田区三番町の「トニーローマ三番町店」で平成16年新年会を開催した。

太田幸一会計の司会により、菊地利博会長は「おめでとうございます。今日は十日会恒例の家族懇親新年会ということで、会員の奥様やお子様にも参加頂いているが、今年は特に奥様やお子様方多数に参加を頂き感謝申し上げます。いつも男ばかりのむさ苦しい集まりが、非常に和やかな雰囲気になっている。新年の挨拶では普通景気の話などをするが、お忙しい中をお越しいただいた大村理事長から、後ほどお話があると思うので、私はこのお店をご紹介します。今から十年前になるのか、私が十日会に加わらせて頂いて間もない頃、今日お見え頂いている二本さんにご紹介頂いて、六本木のトニーローマに役員みんなで行ったことがあります、それ以来、ここのベイベーバック・リブが大好きになり、定期的に食べたくなるもので

ぜひこれを会員多くの皆様に味わって頂こうと思い今回企画した。案内にも記させて頂いたが今日、素敵なお召し物の方が沢山いらっしゃるが、どうぞ手づかみで、豪快に味わって頂こうと思う。最後に新年会らしく、会員の皆様の今年1年のご多幸

とご健勝をお祈り申し上げる」と年頭の挨拶をした。

来賓として、組合本部の大村功作理事長は「おめでとうございます。今日は家族新年会ということで、気楽に参加させて頂いた。会長から組合の話をとということを言われたが、私の挨拶は組合広報の1月号に、しつこく書いてあると思う。それを読んで頂けるとわかると思うので簡単に述べさせて頂きたい。めっき業界は環境問題で大変な時期にあり、昨年末に環境プロジェクトなるものを作った。今までは色々な規制に対して、我々が色々な要望や請願をしてきたが、これからは我々も勉強して積極的に国や都に訴えていく組織にしようということで、発足させた。十日会の皆さんの知識のあるところで、色々アドバイスを頂ければありがたい。この1年宜しく願い申し上げます」と挨拶をした。八幡順一元会長の乾杯音頭で懇親会に入り、ジャンケンゲームなどを楽しく行い、永田一雄元会長の中締めまでなごやかに進められた。



■十日会

第 57 回十日会ゴルフコンペ

11 月 16 日(日)茨城県の阿見ゴルフクラブにおいて第 57 回十日会ゴルフコンペを開催した。私事で恐縮ですが、幹事として今回のコンペ何が心配だったかという「天候」であった。と言うのも私が幹事になってから過去 5 回のコンペいづれも天候に恵まれず、中には途中から雪が降り出すこともあり、会員の方から「雨男」のレッテルを貼られてしまった始末。そんな訳で今回は何としても「晴れてほしい」そう願う幹事でありました。

結果的に前日夜まで雨が降り続き、ヒヤッとされられながらも当日は太陽が顔を覗かせ無事、「雨男」を返上でき一安心しました。

今回は会員 15 名のご参加をいただき、十日会ゴルフコンペ最大の目当て「団体優勝」を狙って、みなさん緊迫した中でも楽しいプレーをされていました。結果については以下の通りです。

OUT IN GRS NET

優 勝	新井嘉喜雄	43	41	84	75
準優勝	狐塚 保之	51	45	96	76
3 位	上村 福子	44	49	93	77

ドラコン 齊藤晴久・上村福子
ニアピン 縄田敏治・石垣安浩・新井嘉喜雄・狐塚保之
ベスグロ 新井嘉喜雄

団体優勝 3 組目 (近藤澄男・新井嘉喜雄・狐塚保之・梅田伊三夫)

団体 2 位 4 組目 (太田幸一・池田憲治・上市孝志・石川英孝)

団体 3 位 1 組目 (八幡順一・上村福子・二木一郎)

団体 4 位 2 組目 (縄田敏治・山田英佐夫・齊藤晴久・石垣安浩)

優勝の新井さん、入賞の方々おめでとうございます。

次回も多くの方のご参加を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

(文:石川英孝)



(団体戦優勝チーム)



ふっ素樹脂含浸

(日刊工業新聞 03.12.11)

川鑄興業(愛知県西春日井郡西春町)は、工作機械の位置決め装置用の耐摩耗性、耐熱性に優れた滑り軸受を完成した。硬く多孔質な金属合金に、フッ素樹脂をしみ込ませる独自の含浸技術を応用。摩耗による位置決め精度の狂いを防ぐのに有効なため、工作機械メーカーに売り込む。同軸受はポーラス超硬と呼ばれる多孔質のタングステン-コバルト合金に、フッ素樹脂を含浸した。同合金はセラミック並みの硬度と耐熱性を持ち、気孔率は約25%。フッ素の含浸により、耐摩耗性、耐熱性に優れる同合金の特性を維持しながら、摩擦の小さい滑り軸受を実現した。

はんだ無鉛化完了

(日本工業新聞 03.12.19)

松下電工は、今年11月末に海外を含めたグループの全製造ラインで有害物質の鉛はんだの使用を中止した。今回の取り組みで、グループ各社の製造工程で使うはんだの約9割が無鉛はんだになる。松下電工グループでのはんだの使用量は年間213トン。このうち188トンが無鉛はんだに切り替えた。

セラミックスコーティング剤

(日刊工業新聞 03.12.12)

日板研究所(横浜市中神奈川区)は、鋼材の防錆機能を大幅に高めるセラミックスコーティング剤(特許取得)を製品化、04年から本格販売に乗り出す。亜鉛メッキをした鋼材の表面に塗ると、メッキ層とコーティング膜が反応し、その境界面に防錆層を形成。3ミメートル幅程度の傷がついても赤錆が発生しない。塗装コス

トは従来の防錆剤と同等で、ランニングコストは大幅に低減できる。電力鉄塔や鉄橋などで試験的に納入したが、結果が良好なことから、代理店を募り一般販売に踏み切る。

6価クロム表面処理鋼板製販全面中止

(日本工業新聞 03.12.22)

神戸製鋼所は、2005年までに環境有害物質の六価クロムを含んだ表面処理鋼板の生産・販売を全面的に中止する。電機メーカーなどの特定ユーザーをはじめ、環境負荷物質を含まない製品の需要拡大に対応する。表面処理を行っている主力の加古川製鉄所(兵庫県加古川市)を改修、生産体制を再構築して04年4月から六価クロムを含まない表面処理鋼板の生産に全面的に移行する。ただ、顧客ニーズの状況によって04年中は従来品の出荷に応じる。

窒素化合物を電気分解で除去

(日本工業新聞 03.12.24)

三菱重工業は、食品業界などの有機物を含んだ工場排水の処理を対象に、汚濁物質の窒素化合物を電気分解で取り除く新方式の装置を市場投入する方針だ。自治体のし尿処理場向けに商品化した業界初の汚水浄化装置を民間の工場にも転用。微生物を用いて分解する従来の生物処理方式に比べ、短工期・省スペース化に伴うコスト削減と浄化能力の大幅な向上が期待できる利点を訴求すれば、工場排水向けニーズを掘り起こせると判断した。工場排水などの民需分野は水処理専門メーカーの独壇場になっているが、三菱重工は新方式をテコに同市場に切り込む。

厚い鉄メッキ

(日刊工業新聞 03.12.29)

フソ一の得意技術は時には20ミメートルを超える厚い鉄メッキ。「これができるのは日本で当社ぐらい。世界的にも聞いたことがない」(大野すみ子社長)と自信をのぞかせる。溶接

は温度変化に伴う収縮からくるヒケがある。厚い鉄メッキは歪みやクラックの原因となるヒケ(膨張後の収縮)がないのが強み。同社の鉄メッキは金型の設計変更への対応に威力を発揮する。厚みが不足している部分にこの鉄メッキ技術を活用すれば膨大なコストを要する一からの造り直しは回避できる。また、製鉄に使われるワークロールの軸受内径部の摩耗を回復する技術としても採用されてきた。最近では樹脂を含浸せた筒状の炭素繊維に鉄メッキを施すことに成功。これが輪転機のロールの重量を5分の1に軽減した。

電鍍金型無電解メッキで作成

(日刊工業新聞 04.1.14)

藤化成(千葉県市川市)は、電鍍金型を無電解メッキで作成する「PHE-EL」(フィール)プレーティング法を開発した。一般には真空蒸着で作成している。これに対し新技術は複製の金型を電鍍加工で作成する際、全工程を35度C以下と低温化することで成形品の性能劣化を抑える。深い垂直面や鋭角なV字溝も正確に再現し、70インチ前後と大型のものにも対応できる。

グリーン調達05年度100%に

(日刊工業新聞 04.1.16)

NECは環境負荷が少なく、リサイクル性の高い部品や素材を積極的に仕入れるグリーン調達を強化するため、早ければ04年度から調達先約3000社の一部を対象に、同社環境スタッフによる環境管理などの改善支援活動を検討していることを明らかにした。こうした措置により、05年度までにグリーン調達率100%達成を目指し、06年7月から欧州連合(EU)で適用される特定有害物質の使用規制「RoHS指令」に対応する。

土中のヒ素・鉛電氣流し回収

(朝日新聞 04.1.25)

これまで土壌を掘り起こすことが基本だっ

た汚染土壌の浄化。これに対し、土壌を掘ることなく、電気を流して重金属類など汚染物質を取り除く新技術を、みらい建設グループと浅沼組、クボタ、富士エンパイロンの4社が事業化する。土壌汚染対策法が昨年2月に施行され対策ビジネスの成長が見込まれるなか、ゼネコンや鉄鋼、非鉄などの技術開発競争が激しくなっている。

事業化するのは電気修復法技術で、汚染された土壌に電極棒を約1.5メートル間隔で打ち込み、直流電流を流すことで、イオン化した汚染物質を電極に引き寄せる。

さらに汚染物質を電極内に循環させている電解液を通じて回収する仕組み。

金価格高水準

(読売新聞 04.1.30)

田中貴金属工業のまとめによると、2003年の金価格が同社の税抜き小売価格ベースで7年ぶりの高水準だったことが29日わかった。イラク戦争やドル安進行によって、世界的に金資産に人気が集まっているためと見られる。昨年の投資向けの金の平均価格は1g当り1399円で、2002年平均の1296円から約7.9%値上がりした。この10年間で最高だった1996年の1405円に迫る水準だった。

基板向け光沢硫酸銅メッキ液

(日刊工業新聞 04.1.30)

荏原ユーザライト(東京都台東区、粕谷佳允社長)は、電子基板部品の高密度化と多層化に対応した光沢硫酸銅メッキ液「キューブライトVF3.プロセス」を開発した。すでに国内や台湾の大手部品メーカーに納入済みで、3月末にも本格販売する。成分や添加剤の工夫によりメッキ厚のバラつきを密粗比で0.89(1が最高、従来品は0.69)と大幅に向上、延び率も20%以上と従来比2割ほどアップさせた。ICパッケージや、携帯電話など高密度化が要求される基板部品向けに年間2億〜3億円を目標に売り込む。

(株)渡辺鍍金工場 大田区「優工場」に認定される

東京都大田区、大田産業振興協会、東京商工会議所大田支部、大田工業連合会の共催により、優れた技術や技能を有し、加えて環境にも配慮し働く社員や近隣住民にも優しい工場を「優工場」として認定している。03年度の大田区「優工場」では区内11社が認定され、さる2月12日の“第8回おおた工業フェア”初日に認定証授与式が行われた。



東京都鍍金工業組合関係では大田支部の(株)渡辺鍍金工場(渡辺正巳社長)が認定証を受けるとともに、11社中、優れた技術・技能、人、街に優しい“総合部門賞”を(株)渡辺鍍金工場をはじめ3社が受賞した。

(株)渡辺鍍金工場は、独自のノウハウを活かした回転めっきを中心に極小品、微細部品、難素材・難形状への各種めっきを行っている。おおた工業フェアには、金、ロジウム、すず、半田、銅、ニッケル等の電気めっき、無電解ニッケル等の各種めっき製品サンプルとその技術的特徴などを出展し、めっきPRに努めた。

表面技術総合展－ME T E C' 04－

共催 (社)表面技術協会、日本鍍金材料協同組合、日本塗装技術協会、
(社)日本熱処理技術協会、(社)日本表面処理機材工業会

会期 平成16年5月27日(木)～29日(土)

時間 10:00～17:00(但し最終日は16:30)

会場 東京流通センター(大田区平和島6-1-1)

出品 ①めっき関係、②塗装・塗料関係、③熱処理・表面硬化関係・気相・真空めっき、表面改質関係、④環境保全・安全対策関係、⑤試験・検査・研究・指導関係、⑥その他表面処理の発展に寄与する機材・材料・技術等。

関連行事 特別コーナー「環境対応のできる新しい表面処理技術ーリサイクルを含めて」、ポスター発表コーナー、技術講演会、特別講演、技術相談コーナー、利用相談コーナー等

＜随想＞

厚生年金保険設立当時の思い出

組合相談役 江原猛二



厚生年金制度の「基本理念」は定かではないが、昭和 17 年、発足に対しての説明会、その内容を回顧してみることにしよう。

当時の産業界は国家の中枢として尊重された。【出征兵士】に対し【産業戦士】は裏方の存在であった。共に報国の念には変わり無い。【官僚、公務員、兵隊】には将来保証の恩給制度がある？使命を同じくする産業戦士の将来に対する経済保証がないので、思案の結果、国策として発足したのが【厚生年金保険】である。

理想的には国民全体の老後年金の確立が理想であるが、思う儘にならず。安全対策として事業主の「ボランティア精神」で発足したのである。

「摘要事業所の設定」摘要事業所とは、従業員 5 人以上、常時雇用している事業所である…事業主は被保険者の責任を義務付けられ掛け金の半分を拠出し、掛け金納付の責任者でもある。戦後少し心配もあったが無事に継続された。

従業員、被保険者は資格保持者として保証され、都合で転退職しても自由、個人の権利で、摘要事業所、国民年金の継続が出来た。

小規模の事業所では雇用対策上掛け金を昇級とした場合が多かった様だ。税務調査で指導を受け青色申告納税も採用して次第に経済も安定した。

昭和 30 年代は高度成長時代で、従業員の雇用に苦労した。政府管掌の厚生年金保険と健康保険が、雇用条件の貢献に役立ったものだ。

佐藤内閣の所得倍增計画も好況に支えられて軌道に乗り総て順調に推移して厚生年金基金の発足の運びとなる。好況と厚生年金の基礎があるので心配もなく加入されたので順調な運営が続き、基金の財政は頗る豊かになり、福祉施設も完備し、一時は組合員の掛け金より、預託金の運用利益が上廻った事もあり、好況が続いた。年金の給付も始まり、受給者は夢の様で感謝していた。

国民年金も感心が高まったが、掛け金が多いので次第に滞納者が多く、人気は次第に低下した。好況に酔い金融関係の勧めで無計画の設備投資で経済は混乱しはじめ、賃金と物価の上昇、民衆の奢りで、生産コストが上昇し輸出は低下して、不況の波が押し寄せ、企業のリストラ、倒産企業が続出、経済は益々悪化して、不安が漂う。平然として暮らせる年金受給者の実情を見習い、混乱している問題を速やかに解決すべきではないか。

他力本願で世相に巻き込まれる事の無いよう努力されたい。

12 年に一度のチャンス、延びる年、延びられる年、延びなければならない。

過去を語る人が少なくなった。

老婆心で苦言を一言、申し上げて失礼する。

<支部シリーズ>

大田支部の巻

一日独戦

石川貞行(大田支部)

今でも書店に行けば数々の架空戦記物の小説が棚に陳列されています。多くは第二次世界大戦を扱った記事で、小生も何冊か購読したことがあります。内容的にはとてもよく時代考証がされていて優れた作品であるがゆえに一時期のブームに終わらず未だに購入する読者が多いのでしょう。

今回はこの欄を借りてちょっと変わった架空戦記を書いてみました。これを書くきっかけとなったのは、第二次世界大戦で日本は敗戦国となりましたが、日本軍はどのくらい強かったのだろう、という疑問からでした。世界ランキングでいうとどのくらいだったのでしょうか。No 1、2はアメリカとソ連で決まりだとしても、ではNo 3以下はどうだったのでしょうか。候補として考えられるのはドイツ、イギリス、フランス、日本でしょうか。しかし、フランスはドイツに敗れたわけですからここでは除外されます。ではドイツと日本では？単純に比較しようとしても地理的な条件からお互いの軍隊を遠征させることは不可能なので、ドイツの位置を思い切って中国近くにもってきました。

プロローグ

1939年9月、ドイツは突然“中国”に侵攻を開始し、世界は第二次世界大戦へと突入した。各国は一斉にこれを非難したが、ドイツ軍の「電撃戦」の前に中国軍は為す術もなく降伏した。当時、日本は満ソ国境においてソ連と戦闘状態にあった。ノモンハン事件である。日本政府は急遽ソ連との和解に動き、9月15日に「武力紛争解消に関するソ日条約」を締結した。

ドイツはしたたかである。中国侵攻前の8月23日にモロトフ・リッペントロップによる「独ソ不可侵条約」の締結に成功していた。このためソ連は中国に介入せず、日本もノモンハン事件をかたづけろまで動きがとれなかった。この「独ソ不可侵条約」の締結を受けて「欧州情勢は複雑怪奇」という有名な言葉を残して平沼内閣が総辞職することになった。

欧米もまた、したたかである。アメリカはモンロー主義を掲げていたためアジアの紛争には不介入の立場を取り続けたが、中国市場の機会均等については常にドイツを非難する声明を出し続けた。そしてその一方ではシェンノート將軍率いる義勇軍「フライングタイガーズ」を東南アジアに送るなどドイツに挑発を仕掛けていた。英仏はアジアにおける植民地政策に危機を抱き、日本に同盟を呼びかけた。後の日英仏三国同盟である。日本としても独ソ両国に睨まれていては安全の確保はでき難しという判断からこの同盟の締結へと動くのだが、同盟締結の直後に英仏両国はドイツに対して宣戦を布告、日本もこれに追随することになり、日露戦争のように火中の栗を拾う格好となる。

ドイツに対して宣戦布告を行った日英仏だが、大きな戦闘は起こらず、局地的な紛争に

とどまった。世界各国はこの状態を「ファーニーウォー」（奇妙な戦争）と呼び、世界は束の間の休息を得ていた。

バトル・オブ・コウリア

1940 年 5 月 10 日未明、突然ドイツの精鋭機械化軍団が鴨緑江を越えて朝鮮に侵攻を開始した。先鋒はヘルマン・ゲーリング空軍元帥率いる航空戦力ルフトワフフェである。最初の目標は飛行場だった。急降下爆撃機ユンカース Ju87 の見事な爆撃が一段落すると、上空にはハインケル He111、ユンカース Ju88 の大群があらわれ軍事施設目標に水平爆撃を展開し始めた。ほんのわずかな間隙だった。

「この野郎、このまま帰れると思うなよ！」

古賀一飛曹はそう叫ぶなり運良く破壊を免れた愛機九六艦戦に飛び乗った。

「コンタク！」

寿エンジンの轟音とともに始動を開始し、九六艦戦は滑走路を離陸体制に入った。

古賀は自分が一番だと思っていたが、彼よりも早くに離陸してゆく一機があった。

「遅れをとったか」

急がなければ、と先頭の機に目を向けた瞬間、右から流れてきた曳光弾が先頭機に吸い込まれた。瞬時に先頭機の左翼が吹き飛ばされ、浮力バランスを失った機体は背面状態となり、低高度だったためそのまま地面に叩きつけられた。

「敵機！」と頭が判断する前に彼の身体が反応し、機体はやや横滑りしながら左への旋回を始めていた。その彼の機体の右側、恐らく直進していたらそこにいたであろう位置にアイスキャンデーのような曳光弾が飛び去った。最初の一撃こそかわしたものの、それが限界だった。離陸直後で速度も高度もない状態では所詮逃げることは出来なかった。正確な二撃目が古賀機を襲い、彼の機体もまた、地面員叩きつけられるほどの銃弾を受けた。地面が近づいてきた時、反射的に操縦桿を引いた彼の射軸に偶然にも敵機が飛び込んできた。降下攻撃後、上昇体勢にあったメッサーシュミット Me109 戦闘機だった。とっさに射撃ボタンを押したものの、九六艦戦は失速し、そのままの姿勢で芝生に落下（着陸？）した。と同時に寿エンジンから黒煙が噴出してきた。古賀はあわてて操縦席から脱出し、宿舍まで走り込んだ。彼の後ろで爆発音がこだましたが、振り替える余裕は無かった。上空には無数とも言えるほどのメッサーが飛び交っていたのだ。

どこの飛行場でも同じ光景が見られた。日本陸海軍の朝鮮における航空戦力は最初の数時間で半減してしまった。そのほとんどが地上で破壊されたのだった。

夕刻、ドイツ空軍第 26 戦闘航空団第 3 大隊のガーラント大尉は指揮所脇の芝生に置いてある椅子で愛用の葉巻をくゆらしていた。

「大尉、陸軍部隊も予想以上の進撃だそうです。この分では来週には今日空襲した飛行場でビールが飲めるかもしれませんよ」

と、同僚のハインツ少尉が語りかけた。

「まだわからん。彼らの敢闘精神は旺盛だぞ。まさか、撃墜した戦闘機から喰らうとは思わなかったがね。」

ガーラントは葉巻を灰皿に擦りつけた。
「それは、奴があまりにも低速で、大尉も高速で近づきすぎていたからではないですか」
「2発当たったのは事実だ。」
そう言うと、ガーラントは懷からもう一本葉巻を取り出した。
「明日からが本番だ。」

日本軍は前線近くの航空戦力に大きな打撃を受けたが、朝鮮半島にはまだ相当の航空戦力を保持していたため、二日目以降からは大規模ではなかったが陸海軍戦闘機による組織だった迎撃戦が行われた。しかし、Me109 は当時世界一と言われる戦闘機であり、迎撃は成功したとは言えなかった。日本海軍の九六艦戦、陸軍の九七戦も格闘戦においては世界一の実力を誇っていたが、Me109 のパイロット達は格闘戦に引きずり込まれる ことなく、高空から高速で降下して一撃を加え、また上空に戻るという一撃離脱戦法に徹していた。さらに、うまく護衛の Me109 を振り切って爆撃機に取り付いた日本機に待っていたのは速度の壁だった。下の一覧を見てわかる通り、日本機が簡単に追いつけたのは Ju87 のみで、Ju88 にいたってはほぼ同速度であり追いついてこれを撃ち落とすなど不可能に近かった。

Ju87 急降下爆撃機	370km
Ju88 急降下/水平爆撃機	460km
He111 水平爆撃機	414km
Me109E 戦闘機	550km
Me110C 戦闘機	520km
九六陸攻	416km
九七重爆	420km
九六艦戦	460km
九七戦	470km

朝鮮半島では急に民族独立運動が湧き上がっていた。ドイツの中国侵攻以来、力をつけてきた親独派集団がその急先鋒になっていたのだ。日本軍が国境地帯からの撤退を余儀なくされ、平壤が陥落すると親独派の勢いはますます大きいものとなっていき、日本政府、軍では制御不能となっていた。
6月14日、ソウルが無血陥落、24日には日本軍が朝鮮半島を後にした。
5月にイギリス首相となったチャーチルは言った。
「今こそ、バトル・オブ・ジャパンが始まろうとしている！」

(次回に続く)



私の夢

上原裕司 (城北支部)



私は、1 年程前から、スポーツクラブに通っています。目的は、クロールで遠泳できることでした。

小学生の時、体育の授業で水泳が始まった頃、体の都合によって水泳が禁止され、水泳が苦手になりました。中学を卒業する頃には 25 メートルプールを泳ぎすることはできましたが、力ずくの状態でした。

水泳の授業は好きではありましたが、水泳が嫌いな訳ではありませんでした。苦手な水泳を無理矢理泳がされるのが嫌いなだけで、友人達とは海に泳ぎに行ったりもしていました。

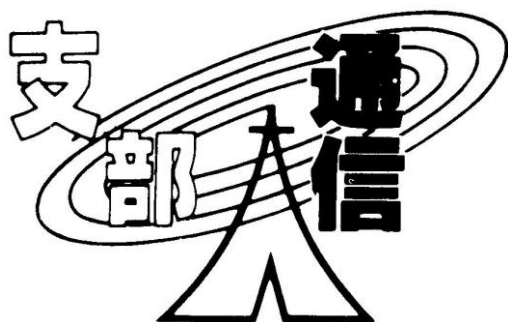
アレルギー体質でもある私は、小学校から中学まで毎日注射を打たなくては行けない程で、体のあちこちに何かできていました。それが、友人と海に行くようになってからは、日焼けはともかくアレルギーの悩みからは解放されました。海で遊んだ思い出と共にうれしい事でした。

ここ十年以上、水泳とは縁遠くなっていましたが、テレビや周りの人達の泳ぎの話を聞くにつれ、水に馴染んで悠々と泳げることを望むようになってきました。そこで、近所のスポーツクラブに行き水泳へ近づきました。まずランニングやウエイトトレーニングをして基礎体力を付けてから、プールへ行きました。

まともに、泳ぎを習った事のない私は、息をする事から習いました。周りを見渡すと殆どがお年を召した女性です。習った事をおさらいするために泳いではみるものの、下手に力が入り永く泳いでいられずに、上手な人の泳ぎを眺めていました。すると、どう見ても溺れたに近いような泳ぎで、いつまでも泳ぎ続けられる人がいます。お年を召した女性です。すごいなと思いました。一緒に習っている人たちの話でも、生きている間に全種目できるようになりたいとか言われます。かなりがんばっているようです。負けてはいられないと思いました。

最初のクラスが終わる頃、なんとか脱落せずについていました。しかし、新たな敵が現れました。プールの塩素濃度 1ppm です。噂には聞いていましたが、やはり来ました。皮膚がカサカサになり見覚えのあるようなものができました。抵抗はしたもののやはり近づかないのが一番のようで、しばらくお休みです。

やはり自然は良いつてことでしょうか？ 学生の頃友人と行った三宅島の海が懐かしい今日この頃です。



■ 城東支部

平成 16 年新年会

城東支部（遠藤清孝支部長）は去る 1 月 13 日（火）午後 6 時より江戸川区松島の「割烹・いこい」に於いて平成 16 年の新年会を開催した。

当日は、来賓・支部員合わせて 53 名が出席、長谷川寿紀会計の司会で開会し冒頭遠藤支部長は環境問題に伴う様々な規制と景気の低迷の話を取り上げ、特に排水規制の問題では 1 p p m という単位を「距離」に置き換えて説明、「p p m」とは 100 万分の 1 を表す単位であり、た

例えば東京～大阪間を 500 k m とするとその 100 万分の 1 は 50 c m。今話題となっている「0.03 p p m」といえば 1.5 c m にしかならない、この数字を考えても我々はこのような厳しい規制の中で仕事をしていかなければならず苦労も多いと思う」と力説、そして「今年も暗い話が多いが今が踏ん張り時、未来は自分達で作っていくものだから皆で力を合わせて努力して行こう！」と力強く挨拶。次に姫野副理事長よりその話を受け環境プロジェクトから土壌汚染の話題に触れ「非常に厳しい時であるが期待を込めて頑張っていきたい。」とご挨拶を頂いた。

ご来賓としては、江戸川区の池澤正彦助役、島村宣伸衆議院議員、大西英男都議会議員、高木ひでたか区議会議員、宇田川芳雄前衆議院議員と各氏よりご挨拶と年頭の祝辞を頂いた。

その後、梶原相談役の乾杯の音頭で祝宴に入り出席者は皆新年の挨拶を交わしながら料理とお酒を楽しみ佐竹総代の中締めまで宴は続いた。（文・写真／内山雄介）



■城西支部

平成 16 年新年会

城西支部(元井民夫支部長)は1月16日(金)午後6時から西池袋のホテルメトロポリタン3Fカシオペアで平成16年新年会を開催した。

津田智宗総務委員長の司会により小橋秀一副支部長の開会の挨拶の後、元井支部長は「おめでとうございます。ご多忙の中を多数のご出席を頂き感謝申し上げます。さて、私どもめっき業界において、政府の言われるような景気回復はまだまだ感じられない。日々、粛々と営業を行ってギリギリの状況で経営をやり繰りしているのが現状ではないか。仕事量の多い業者は価格引下げのため、思うような売上も確保出来ない等と良く耳にする。また、本年はハウ素、フッ素の暫定期間が終わり、7月1日より厳しい規制値になる。新規制値は現状の技術では簡単にはクリア出来そうにない。組合本部で

は暫定期間の延長を請願しているが、まだどうなるかわからない。このように経済的にも、環境的にも今年は厳しい状況が続くものと思う。この状況をみなさんとともに乗り越えていかなければいけないと思う次第である。何卒今後の支部運営についてもご指導並びにご協力をお願い申し上げます」と年頭の挨拶をした。

来賓として、組合本部の姫野正弘副理事長、隣接の城北支部・平野普三雄常任理事、太田昭宏衆議院議員、矢島千秋都議会議員、吉田公一前衆議院議員、戸塚由雄豊島区議会議員、長橋桂一都議会議員から挨拶があり、荻宿充久副支部長の閉会の辞で第一部を終了した。

第二部懇親会は石田義勝親睦委員長の司会により由田猛副理事長の乾杯音頭で祝宴に入った。福引抽選会などで盛り上がり、戸塚秀孝青年部会長の中締め、柏村一志常任理事の閉会の辞までなごやかに進められた。



■城南連合支部

平成 16 年新年会

城南連合支部(中澤敏明城南支部長、藤田直人品川支部長、志田和陽大田支部長)は2月6日(金)午後6時30分から目黒雅叙園4階静風で、来賓、支部員64名が出席して平成16年新年会を開催した。

司会をつとめる葛西康二連合事務局長が「立春を過ぎて遅い新年会となったが、新年会にふさわしく明るく楽しい会となるようご協力をお願い申し上げます」と開会挨拶、三支部を代表して、中澤敏明城南支部長は「おめでとうございます。ご多忙の中を多数のご出席を頂き厚くお礼申し上げます。組合活動については大村理事長、川上副理事長にご挨拶を頂くので、私からは経済について話したい。昨年秋より景気が上向いてきたと言われている。昨年からの失業率の減少、倒産件数の減少というデータをみると、たしかに上向いているのかと思うが、我々

業界においてはまだまだ上向いている実感はない。一部半導体などは良いと言われているが、全体からみると、まだまだ冷え込んだままの状態である。議員の先生方には組合から多くの要望があると思うが、景気回復、環境問題の克服のためにお力添えを賜うようお願い申し上げます。最後にみなさんのご健勝、会社の発展をご祈念申し上げます」と年頭の挨拶をした。

来賓として、組合本部の大村功作理事長、川上洋一副理事長、小杉隆衆議院議員、松原仁衆議院議員、中西一善衆議院議員秘書、小山敏雄都議會議員から挨拶を頂き、小谷野英勝城南副支部長の閉会の挨拶で第一部式を終了した。

引き続き第二部に移り、若山満城南支部事業部長の司会により、海老名平吉顧問の乾杯音頭で祝宴に入った。宴たけなわのなか福引抽選会が楽しく行われたあと、木村秀利常任理事はじめ来賓、顧問、相談役が壇上に上り、大沢俊孝氏の音頭で中締めを行い、懇親会を終了した。



■城北支部

平成 16 年新年会

城北支部(篠根健一支部長)は1月13日(火)午後6時から西日暮里のセレス千代田21で来賓、支部員85名が出席して平成16年新年会を開催した。

大和田昌宏総務の司会により今泉好隆副支部長の開会の挨拶のあと、篠根健一支部長は「おめでとうございます。昨年は不況のなか大変厳しい1年で、みなさんもお苦勞の連続ではなかったかと思う。私が工場の荷物を整理していたところ20数年前の名簿が出てきた。当時は140社の仲間がいたが、現在は54社で、誠にさびしい限りだが、それだけ厳しいことを実感した。私たちは血のにじむような努力をして3分の1の中に残り、ある意味ではエリートかもしれないが、そういう自負と自信を持って今年も一層努力して企業経営に当たりたいと思う。私たちには環境問題という大きな壁がある。ホウ素、フッ素等の暫定基準、土壤汚染問題、水生生物の保護のための環境規制など挙げればきりが無いほどである。このままでは私たちは環境保護の名のもとに押し潰されてしまうという感を強くしている。環境行政のあり方には難しい面があると思うが、少しは都市型の環境行政があってもいいのではないかと思う。環境を守ることの大切さを十分承知し、努力もして出来ることは真摯にやってきたが、出来ないことは出来ない

と声を大にして上げていかなければいけないと思う。最近、若い三世の人が社長、あるいは専務となって家業を引き継いでいる。そういう方々のエネルギーをもって良い方向へ向かってくれるのではないかと期待している」と年頭の挨拶をした。

田中貴嗣青年部会長は「今年6月にホウ素フッ素の暫定基準が期限切れになるが、出来ることは守るが、出来ないことは出来ない」と組合員一丸となって活動していきたい」と挨拶した。来賓として間部健太郎副理事長、隣接支部の小嶋摂郎中央支部長、西川太一郎前衆議院議員、松島みどり衆議院議員、北城貞治都議会議員、鈴木貫太郎都議会議員、藤沢志光荒川区長、菅谷安男荒川区議会議員、須永京子区議会議員、近藤澄男近藤耐酸槽(株)社長から挨拶があり、野上敬副支部長の閉会の辞で第一部を終了した。第二部祝宴は今村和則総務の司会により、高松俊和副支部長の開会の辞のあと、大和田博相談役の音頭で乾杯した。懇親会は、青年部有志による福引を楽しむなど、平野普三雄常任理事の中締め、田村卓也副支部長の閉会の辞までなごやかに進められた。



■中央支部

平成 16 年新年会

中央支部(小嶋摂郎支部長)は、1月16日(金)午後6時から上野東天紅で、来賓、支部員43名が出席して平成16年新年会を開催した。

石井徹夫総務の司会により、始めに新井富保副支部長が開会の挨拶をした。

小嶋摂郎支部長は「明けましておめでとうございます。ご来賓、支部員の皆様、本日はお忙しいなか、中央支部新年会に御参集頂き感謝申し上げます。環境問題も年をおうごとに厳しさを増し、ホウ素、フッ素といった処理困難な物質まで規制対象になっているが、現状をよく把握し、出来ること、出来ないことをはっきりさせて、対応のできない規制値にならないように本部とともに協力していきたいと思いますので、ご協力お願い申し上げます。時代の流れはどんどん速くなっており、

以前の何倍もの速さで社会が変化しており携帯電話、家電のデザイン、機能もすぐに新しい方にきりかわり大手の製造業もこれに対応すべくベルトコンベア方式から、一人一人が個々に全工程を一貫して行うようなセル方式に移行し、個々の作業者も幅広い知識、技術を求められるようになり会社組織も社会の変化に対応する柔軟性が必要になっています。

このような時代は、小回りの利く我々、中小企業においてはチャンスであり確固たる技術を持つ会社ばかりなのですから、社会の変化にすばやく対応する気持ちがあればよいと思います。まして、地価の下落や昨年来の江戸開府400年などで下町が見直され活性化しているので、ここをチャンスと思い厳しい状況を乗り切っていきたいと思う。皆様のご健康、ご繁栄を祈念申し上げます」と年頭の挨拶をした。来賓として、組合本部の川上洋一副理事長、隣接の永田一雄足立支部長、保坂三蔵参議院議員奥様、吉住弘台東区長、服部ゆくお東京都議会議員から挨拶があり、堀江清総務の閉会の辞で一部を終了した。二部懇親会は一部に引き続き石井徹夫総務の司会により、東松国雄顧問の乾杯の音頭で祝宴に入った。懇親会はなごやかに進み、歌謡ショー、福引など楽しいひとときを過ごし、内山弘一顧問の手締めにより懇親会を終了した。

(文/写真 堀江清)



■足立支部・足立鍍友会

平成 16 年新年会

足立支部(永田一雄支部長)と青年部の足立鍍友会(高橋利男会長)は共催で1月22日(木)午後6時から西新井大師門前の武蔵屋で来賓、支部員77名が出席して平成16年新年会を開催した。

石川芳英総務の司会により、橋本英雄副支部長の開会の挨拶のあと、永田一雄支部長は「あけましておめでとうございます。私はこの業界に入り30年になるが、めっき業者はおおよそ3分の1まで減少した。日本の生産量は落ちているわけではないので3分の2の仕事が海外に流れていってしまったことになる。生産のグローバル化が進み、今は日本製、中国製、韓国製ということではなく、組み立てに最適な国で、世界中から最適な部品を集めて作られている。ワールドワイドな生産システムでは外国製ではなく、中国で作られたソニーのプレステーション、イギリスで作られたトヨタの自動車と言うことで、メーカー製の海外で作られた製品と言う事になる。そのメーカーの信用で我々はものを買うわけで、作った場所にこだわらなくなってきた。その代わりどこで作られても大丈夫なように物づくりのシステムがなければ安心して作れないし、安心し

て買えない。それがIS09000、IS014000に基づいた生産システムと言うことになる。生産のグローバル化は昨年まででおおよそそのところは終わったのではと思っている。中国で生産するもの、国内で生産するものの棲み分けがはっきりしてきた。これからは中国で生産することがやはり無理で、もしかすると国内に生産が戻ってくるケースも考えられる。海外に出て一番困ることは良いめっきの外注がないことという。ものを作るということは工程のどれかが欠けたら優れた製品は出来ない。めっきの仕事は最終工程であり物づくりの大事なサポートインダストリーである。めっきが海外で出来ないからとりあえず国内で生産しようということが沢山ある。めっきの仕事が、物づくりを海外で作るか、国内で作るかのキャスティングボードを握っているともいえる。従ってあまり悲観的にならずもう少し自信を持ってもいいのではないかとと思う。めっき工場は多くの場合、零細企



業であり町工場である。しかしそのことを悲観することも卑下する事もない。国内の大手セットメーカーで今何が行われているのか。広大なベルトコンベアーを廃止して、一人ですべてを生産するセル方式にどんどん転換している。いわば一人の町工場の集まりになってきている。町工場の生産方式が生産性もよく、効率もよく、不具合も少ないと言うことが認められてきた。しかしながら昨今のあまりにも厳しい環境規制は、めっきの仕事そのものが危ぶまれる傾向のものがある。それらに対して出来ないことは出来ないとはっきりと言う必要がある。今年は環境問題での我々の生存を賭けた正念場の1年になると思うので、皆で協力し一致団結して、この業界が成り立つように行動して行きましょう」と挨拶した。

高橋利男青年部会会長は「おめでとうございます。今年はオリンピックの年で、野球、水泳など日本人選手の活躍を期待したい。昨年鍍友会に新人4名が入会して頂き、本日も後ほどお手伝いを頂いて抽選会を行うので楽しんで頂きたい」と挨拶をした。

来賓として組合本部の大村功作理事長、隣接の篠根健一城北支部長、足立区産業経済部経済観光課・清水忠課長、鴨下一郎衆議院議員、三原将嗣都議会議員、近藤やよい都議会議員、高島直樹都議会議員、足立区議会議員の藤沼壮次議員、瀬沼剛議員、高山のぶゆき議員、芦川武雄議員を代表して藤沼議員、田中井正夫(株)関東金誠専務取締役から挨拶があり永田吉輝顧問の乾杯音頭で祝宴に入った。細井碧副支部長が来賓紹介を行い、青年部の足立鍍友会による福引抽選会が楽しく行われ、小澤栄男常任理事の中締め、石川和男副支部長の閉会の辞をもって終了した。

■本所支部

平成 16 年新年会

本所支部(山田英佐夫支部長)は1月16日(金)午後6時半から錦糸町のロッテプラザで平成16年新年会を開催した。

岡本博司副支部長の司会により、はじめに山田支部長は「おめでとうございます。昨年から今年にかけて色々なことがあったが、日本も大きく変わって来たようだ。アメリカが戦争を仕掛け、それにつられて日本も海外に自衛隊を派遣することになった。また私も身の回りでは土壤汚染問題、排水規制問題が大きくクローズアップされてきた。ところで、みなさんとお会いできる機会が少ないので、この場を借りて本所支部の状況をお話したい。以前から20社を切ったら考えようとお話してきたが、昨年までの20社が今年から19社になり、今年はそういうことを考えていく年かと思う。昨年暮れ、みなさんがどう思われているかアンケートを取らせて頂き、支部員19社のうち11社から回答を頂いた。複数回答も可ということで、どの支部とは指定しないで他支部との合併は賛成が0、どちらとも言えないが5社、反対が6社であった。支部の解散は賛成5、どちらともいえないが4、駄目が2。本部直轄はどうか、賛成が7、どちらかとも言えないが3、反対が1。このまま支部員数が減ってもやっていきましょうかという案に対して、OKが3社、どちらかとも言えないが3社、このままではいけないが5社あった。これは単純に足したものだが、それ以外にも各案、全体に対してご意見を頂いた。他支部に入る前には新たな出資が必要ではないか、二番目も同じような意見で、

三番目が本部に入った場合、支部費、費用はどうなるのか、四番目は本部直轄にして連絡会を兼ねた親睦会的なものを有志で作ったらいいいのではないかというご意見を頂いている。これは第一次的なもので、これから話を煮詰めていかなければならないが、この集計結果に縛られることはないにしても、これから色々と議論していく上での叩き台として使って行けたらと思う。今日は本部の大村理事長も後程でお見えになるので、この集計結果をお見せしてご意見を伺おうと思う。現在、本部関係、厚生年金、健康保険組合に出している役員数は全部で11ある。それを5、6人の人数で兼務してやっているのが実情である。これを維持していくのが大変であるが、本部にも色々訴えていきたいと思うし、また同時に支部内でも機会あるごとに色々な話をして行きたいと思う。アメリカの行動に日本も巻き込まれて、日本が大きく変わろうとしている。そして、私ども業界も非常に大きな曲がり角にきて、私ども企業としてもやりにくい状況になってきたと思う。アメリカでBSE、いわゆる狂牛病が発見されて2、3日後に吉野屋が牛丼を売らないと言った。もう牛丼を食べられなくなるのかというショックもあるが牛井屋さんが牛丼を売らないことをたった2、3日後に決断する時代で

ある。それは私どもで言えば、めっき屋が何か問題があったら、めっき屋をやらないということを言っているのと同じである。今の世の中、企業モラルが非常に重要視されてきている。我々も環境に対して十分に考慮して頑張ってやっていかなければならないが、頑張るといっても限度があると思う。何とか知恵と工夫と努力で、この1、2年を乗り切っていきたい。また非常に伝統のある本所支部でもあり、どういう形で進めていくか慎重に考えながら、みなさんと色々な意見を戦わせながら考えていきたいと思っている。今年1年みなさんお元気で、また企業も発展されるようお祈り申し上げます」と年頭の挨拶をした。

来賓として組合本部の大村功作理事長、八幡順副理事長、田中進墨田区助役、城東支部の木下健次常任理事、三宅直(株)三宅静男商店専務から挨拶を頂き、安斎克茂常任理事の音頭で乾杯した。



■葛飾支部

平成 16 年新年会

葛飾支部(神谷博行支部長)は1月23日(金)午後6時から柴又の川甚で来賓、支部員81名が出席して平成16年新年会を開催した。

小倉攻一副支部長の司会により、佐藤秀昭副支部長の開会の挨拶のあと、神谷支部長は「おめでとうございます。日本経済は非常に低迷している。小泉内閣は構造改革を断行するのであと2、3年我慢して下さいと言い続けて4年が経ったが、私どもめっき業にとって良くなったことは1つもない。私どもは国内の空洞化を何とか食い止めてほしいと思っているが、中国等への進出も一向に止まらない。私の会社では中国で作った品質の悪い製品の直しがきている。いまはまだ品質が悪いと言われているが、世界中から中国へ企業が進出しており、あと3年で日本と同じレベルになると言われている。めっき会社も何万もあると言われており、技術レベルの高い会社が出てくると日本のめっき業界にとっては脅威となる。最近ニッケルが千円から二千元へと急騰しているが、中国の発展が著しく、ステンレス等に使うニッケルの需要が増えたことが原因とされている。それだけ中国は物凄い成長をしており、我々も対応を考えないと負けてしまうのではないか。最近メキシコとの自由貿易協定が話題となっているが、これが締結されると、日本から自動車を輸出する代わりにメキシコから豚肉が入り、国内の養豚業者が壊滅すると言われている。このように世界情勢は目まぐるしく変化している。昨年の支部活動では葛飾区産業展にみなさんのご協力を頂いて電気スタンドを作り全部を売

り尽くした。又たんぼ計画を2年間行い、作業環境測定、特殊健康診断を無料で行って頂いたが、今年からなくなる。現在非常に景気が悪く、これから転廃業が出てくるのではないかと思うが、そうした状況の中で支部運営を進めていくには経費の節減を図りながら儲けることを考えていかなければならないと思う。東京都火災共済、安心財団の事務手数料など多少でも支部の収入となるようにしていきたい。ただこれ以上減ると支部運営も難しくなるので、支部事務局に手をつけなければならないと考えている。今後どういう状況になるかわからないが今からそうした対応を考えていきたいと思う。これからもみなさんのご協力をお願い申し上げます」と挨拶をした。

来賓として、組合本部の大村功作理事長、八木原利勝葛飾区助役、平沢勝栄衆議院議員、山口那津男参議院議員、野上純子都議会議員、木村陽治都議会議員、鈴木一光都議会議員、樺山卓司都議会議員夫人から挨拶があり、伊藤精二副支部長の来賓紹介、広根淳一副支部長の閉会の辞で第一部を終了した。

第二部懇親会は中田充彦副支部長、岩佐博巳会計の司会により、西谷幸一副支部長の開宴の辞のあと、元井民夫城西支部長の乾杯音頭で祝宴に入った。懇親会は石川進造顧問の中締め、太田夢一顧問の大締めまでなごやかに行われた。



■向島支部

平成 16 年新年会

向島支部(石田昌久支部長)は1月16日(金)午後6時から第一ホテル両国 25F アジュールで来賓、支部員73名が出席して平成16年新年会を開催した。

仲俣雅行副支部長の司会により、向坪昭副支部長の開会の挨拶のあと、石田昌久支部長は「おめでとうございます。去年はイラク戦争に始まり、イラク戦争に終わった1年であった。また景気もパツとしない1年であったが、今年のニュースを見ると、少しは良くなるのではないかという声が聞かれる。しかし我々業界においては今年6月にホウ素、フッ素等の暫定基準が切れるということや土壌汚染問題など、乗り越えていかなければならない問題が沢山ある。組合本部と力を合わせて1つ1つ問題を解決していきたい。昨年5月に私が支部長に就任した時に情報という言葉キーワードにやっていきたいと述べたが、本日みなさんに配布したパンフレット裏の寄せ書きの真ん中に何か言葉を書いてくれと言われ、「動」という言葉を書かせて頂いた。情報はインターネットなどからも取れるが、情報を受けるだけでなく、それをもとに行動しなければ何の意味もないと思う。私が先代社長からよく言われたことは、お得先を回りなさいということで、たまにお客さんのところに伺って社長さんや専務さんと話をすると、思わぬところから仕事につながったり、お前のところでこんなめっきをしていたのかという話になり、宣伝不足だったと思うことが多々ある。それも行動を起こしたから得られたもので、まず行動を起こして、それを自分のものにする。何もしないで行政は何もしてく

れない、組合も何もしてくれないというのは当然で、自分から行動しなければ何も変わらない。私は今年は動くということを1つのキーワードにして、みんなで力を合わせて頑張っていけたらと思う。私は向島支部の支部員のみなさんのやさしさと、このめっきという仕事が大好きである。そんな中で1社また1社と消えていくのが本当に残念である。みんなで力を合わせて、1人1人が知恵を絞って頑張って動くことによって、支部員の減少をなくして、それぞれが発展していくよう頑張っていきたい。未来は誰かが作ってくれるのではなく、自分たち1人1人が築くものだと思う。これから先まだまだ大変なことが続くと思うが、支部員みんなで力を合わせて頑張っていきましょう」と挨拶をした。

来賓として、組合本部の大村功作理事長、山崎昇墨田区長、出羽邦夫区議会議員、石井義修都議会議員、桜井武都議会議員夫人から挨拶を頂き、深田稔副支部長の閉会の辞で第一部を終了した。第二部懇親会は、佐久間隆太郎幹事、坂井正広会計の司会により、仲俣一三相談役の音頭で乾杯した。来賓として松島みどり衆議院議員、西川太一郎前衆議院議員から挨拶を頂き、宴たけなわのなか恒例の福引抽選会が行われ、楽しいひと時を過ごしたあと、顧問・相談役が壇上にあがって中締め音頭をとり懇親会を終了した。



■西部支部

平成 16 年新年会

西部支部(西原敬一支部長)は1月24日(土)午後5時30分から昭島市のフォレスト・イン 昭和館において来賓、支部員多数が出席し、西部支部Bブロック担当により平成16年新年会を開催した。

山下良司事務局長の司会により、柴太副支部長の開会挨拶のあと、西原敬一支部長は「おめでとうございます。昨年は西部支部も新体制になり、お陰様で皆様のご協力でご何とか年を越すことができ、改めてご協力にお礼申し上げます。“たんぽぽ計画”の事業を始めて、今日も新年会の前に中央災害防止協会の安本先生や荻原さんに来て頂き、ウォーキング等、色々なことを勉強させて頂いた。こうして少しずつ活動の輪が広がり、労働安全について少しずつ理解を深めて頂いているのではないかと思います。今年も同じように計画を組んでおり、ぜひ参加して頂いて、作業環境を整えて頂きたい。と

ころで今年に入って少しずつ景気が回復しているという見方が強まっているが、お客様や同業者との情報交換では、まだまだ模様で十分にそういった実感が沸かないということである。しかしながら、悲観的な見方をするよりも、これからそういうような方向にいくのだということで我々も準備をしなければいけないのではないかと思います。また、支部としては新しい人達が少しずつ色々なミーティング、親睦会に出てきており、親睦を中心に、お互いの情報交換を密にしていきたいと思う。特に皆さんが常々悩んでいる事、例えば土壌汚染の問題や、お客様からの要求が強くなっている中で、環境を整えていこうとか、後継者をどうしようとか、色々な問題が降りかかってきており、支部としてどういう情報を出しているといいのか、じっくり考えながら、なおかつ、意見交換もさせて頂きたいと思う。これまでブロック間の話し合いが少なく、昨年はたまたまBブロックとEブロックが合同で懇親会を行ったが、そういう企画や、肩のこらない親睦会等も企画させて頂きた



いと思う。ぜひ参加して頂いて、色々な情報の中から事業の発展にお役立て頂きたいと思う」と年頭の挨拶をした。

来賓として、組合本部の大村功作理事長、新藤義彦都議会議員、谷村孝彦都議会議員、由田猛副理事長の挨拶、大内源司Bブロック長の挨拶があり、姫野正弘副理事長は「私どもの顧問の先生から、過去百年前にさかのぼり、15年周期で景気が回っており、バブルがはじけて15年、今年は景気が良くなる年回りであるという話を伺ったが、歴史は繰り返されることで大いに自信をもって仕事に取り組んで頂きたい。業界の経営環境は厳しくなっているが、我々業界なくしては、自動車や携帯電話、パソコンも作れないわけで鉄を錆びから守る重要な仕事をしており大いに誇りと自信をもって仕事に取り組んで頂きたい」と述べ、乾杯音頭をとった。

懇親会は半田實常任理事の中締め、次期担当の佐藤晃Cブロック長の閉会の辞までなごやかに進められた。

たんぼぼ計画・優良事業場見学会

西部支部(西原敬一支部長)は2月6日(金)午後12時30分三鷹駅北口よりバスツアーによりたんぼぼ計画・優良事業場見学会を実施した。はじめに東京鍍金公害防止協同組合の城南処理センターを見学、小原俊幸専務理事よりシアン無害化施設の概要等の説明の後、大野克博所長の案内で、

1. 固液分離工程(前処理)
2. シアン分解処理工程(一次処理)
3. 生物処理工程(二次処理)

等の入念な説明を受けながら、施設を見学した。続いて、京浜島にある中央鍍金工業協同組合の内藤雅文理事長経営の平和工業(株)を内藤社長の案内で、操業中の工場を見学したあと、内藤社長の経営哲学についてお話を聞くことができた。

今回の企画は厚生労働省の委託を受けた中央労働災害防止協会のたんぼぼ計画の一環として実施されたもので、見学終了後、参加者16名により懇親会を開き、和気藹々のうちに散会した。(事務局山下記)



東京の水不足は深刻？一昔前までは、日本の水は無尽蔵と言われていたが、どうした事か、この頃水不足に悩まされている。

乱開発により森林の減少、特にぶなやなら等の落葉広葉樹が、激減している。落葉広葉樹は、根を深く張り、土砂災害を防ぐと共に、木の実を実らせるので、野猿や熊などの野生動物が安心して生息し、人間の生活圏に出てこない事が知られている。

特に注目されるのは、落ち葉で、数年の堆積で腐葉土となり、たつぷりと雨水を含んで天然のダムとなりうる。しかも、徐々に地下水と成り流れだすので、洪水を防ぎ、川の水も豊富になり水不足も解消される。又、ミネラルを多く含んでいるので、魚を育てると言われており、漁民の植林を始まっております。魚好きな日本人にとって、大切な財産となるでしょう。

水田も天然のダムとなり、地下水を豊富にします。減反は理に反する事なのかも？
参考図書

ブナの放流 宮下正次著 北斗山版

白神山地に生きる 鎌田孝「著白水社

地球にやさしく生きる人たち 石澤清史著 中央法規出版

野生のいのちは温かかった 羽島宏著創英社 三省堂書店

環境の科学 安藤淳平、古田直紀、瀬戸目之、秋山堯共著 日新出版

編集後記

4月の政府の月例経済報告では、景気回復宣言に近いものが出された。ただ大方の見方は回復しているのは一部大手製造業に限られたもので、中小企業、地域経済まで波及していないと見ている。たしかに、大手の中ではキャノンが4期連続最高益を更新したなど、デジタルブームに乗って家電メーカーなどの好調が報じられているが、一方では個人消費の低迷など先行きを懸念する声も多くなっている。

ところで、最近の製造業の新しい動きとして、これまで生産拠点を海外に移し国内空洞化が問題となっていたが、ここへきて生産現場を日本に戻す国内回帰の現象が起きているという。(2.9NHKTV ニュース)それによると、市場の動きに柔軟に対応できることや輸送時間の短縮などから音響メーカーがマレーシアから日本へ生産を移した。大手半導体メーカーでは、製品サイクルの

速いデジタル家電に対応するため国内で開発部門と生産現場を1つした。そのほか液晶テレビやデジタルカメラなどにもそうした動きが広がっているという。国内産業にとって嬉しいニュースで、こうした動きがさらに進み国内産業の活性化につながってほしいと思う。

広報2月号

印刷 平成16年2月15日

発行 平成16年2月15日

(毎月1回20日発行 第37巻第2号)

発行所 東京都鍍金工業組合

〒113- 東京都鍍金公害防止協同組合

0034 東京都文京区湯島1-11-10

TEL 03(3814)5621 FAX03(3816)6166

発行責任者 大村 功作

編集責任者 木村 秀利

印刷 スザキ企画 TEL047(338)1222

〒272-0802 市川市柏井町2-1419-4

定価 500円

成人病健診・人間ドック・脳ドックのご案内

関東地区 75ヶ所の契約機関で受けられます。

当健康保険組合は健診に大きな力を注ぎ、費用の補助など、受けやすい環境づくりを進めています。年に一度の健康チェックを必ず受けましょう。

◎対象者及び費用負担



種 別	健 診 対 象 者	組合負担額(平均)	受診者負担額
成人病健診 (C・D検査)	被保険者及び 被扶養配偶者	20,000円	2,000円
人 間 ド ッ ク	被保険者及び 被扶養配偶者	日帰り 34,000円 1泊 45,000円	10,000円 20,000円
脳 ド ッ ク	50歳以上の被保 険者及び被扶養者	定額15,000円補助	平均21,000円
骨粗鬆症健診	女子被保険者及び 女子被扶養配偶者	定額 3,150円補助	平均 0円

◎人間ドックの基本的な検査メニュー

1. 問診
2. 身長・体重・肥満度
3. 医師による視診・打聴診・触診
4. 生理学的検査 視力・聴力・血圧・心電図・眼圧・眼底・肺機能検査
5. 検体検査
 - ①採血した血液で肝機能・脂肪関係・糖尿病・痛風など代謝関係の検査。
 - ②採血した血液で貧血・白血病など血液そのものの病気についての検査。
 - ③採血した血液でリウマチや感染症についての検査。
 - ④尿についての蛋白・糖・尿潜血を検査。
 - ⑤便について免疫学的便潜血反応を検査。
6. X線検査
 - ①胸部X線…レントゲンを撮り、肺の中・胸膜・肋骨・胸の中央の異常を見る検査。
 - ②上部消化管X線検査…バリウムを飲み、食道・胃・十二指腸の異常を見る検査。
7. 腹部超音波検査 肝臓・腎臓・胆のうを中心に腹部内臓を検査。
8. 婦人科検査 婦人科専門医による内診と子宮細胞診検査。
9. 個人面接による総合判断 医師が検診成績の説明、日常生活改善ポイントをアドバイス。
10. 保健・食事指導

※検査項目は、実施機関によって異なる場合があります。

成人病健診、人間ドックの他に、19ヶ所の契約機関で脳ドックを受診できます。

契約機関及び健診手順につきましては、機関紙「めっきけんぽ」平成15年6月号をご覧ください。
 だくか、健保組合までお問い合わせください。